**『人を幸せにする経営大賞 ２０２２』応募用紙**

**【応募部門】**

**貴社が応募する部門について〇印をしてください**

**（　　）中小企業　　　　（　　）小規模事業者**

　　　※募集要項「参考資料」の『「中小企業」、「小規模事業者」の定義』をご参考ください。

**【応募者の概要】**

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| （フリガナ）  名称（商号または屋号） | | |  | | | | |
| 代表者氏名 | | |  | | | | |
| 自社ホームページのＵＲＬ  （ホームページが無い場合は「なし」と記載） | | |  | | | | |
| 主たる業種名称 | |  | 事業内容 | |  | | |
| 常時使用する  従業員数 | | 人 | ＊常時使用する従業員がいなければ、「０人」と記入してください。  ＊代表者、役員は除く。 | | | | |
| 資本金額  （個人事業者は記載不要） | | 万円 | | 設立年月日（和暦）  ※１ | | | 年　　月　　日 |
| 連絡担当者 | （フリガナ）  氏名 |  | | 役職 | | |  |
| 住所 | （〒　　－　　　） | | | | | |
| 電話番号 |  | | 携帯電話番号 | |  | |
| FAX番号 |  | | E-mailアドレス | |  | |

※１　「設立年月日」は、創業後に組織変更（例：個人事業者から株式会社化、有限会社から株式会社化）された場合は、現在の組織体の設立年月日（例：個人事業者から株式会社化した場合は、現在の株式会社としての設立年月日）を記載してください。

＊個人事業者で設立した「日」が不明の場合は、「日」の部分は空欄のままで構いません。

　【推薦者記入欄　※推薦者がいない場合、記入不要です。】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 企業名： | 役職・氏名： | TEL |  |

**※応募用紙の記入方法およびご提出の際の留意点※**

　〇文字のフォント：１１ポイント　〇印刷方法：Ａ４サイズ、片面印刷

　〇設問項目は改変しないでください。

　〇設問の回答欄が足りない場合は適宜、行数・ページ数を追加できます。

　〇必須項目は必ずご記入をお願いします。（※すべての任意項目を埋める必要はありませんが、

少しの取り組みでもありましたら可能な限りご記入をお願いします。）

　〇現在、取り組みを行っている途中の内容でも記入可能です。

〇申請書・添付書類につきましては、原則メールにてご提出をお願いします。

○応募用紙はＰＤＦ形式にてご提出ください。

**【『人を幸せにする経営大賞』設問項目】**

**※設問は全部で１７問あります。該当する設問のみご回答ください。**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **１）経営理念等** | **２）生産性向上** | **３）雇用管理改善** | **４）仕組み**  **･ルール作り** | **５）組織成果** |
| **Ｑ１～Ｑ４** | **Ｑ５～Ｑ８** | **Ｑ９～Ｑ１３** | **Ｑ１４** | **Ｑ１５～Ｑ１７** |

1. **経営理念等**

**Ｑ１．業界や自社を取り巻く今の経営環境についてお書きください。また、課題等があればその背景・きっかけ等についてお書きください。（※必須項目）**

|  |
| --- |
|  |

**Ｑ２．経営理念、社是、ビジョン、経営方針などで、貴社の中長期における経営の方向性について示されているものがあればお書きください。（※必須項目）**

|  |
| --- |
|  |

**Ｑ３．今後、３年後、５年後などを目安に、働きやすい職場づくりや生産性向上に向け、事業計画等に基づき、取り組まれている内容があればお書きください。（※必須項目）**

|  |
| --- |
|  |

**Ｑ４．Ｑ２、Ｑ３の経営理念、事業計画等を従業員まで展開するために、実施されている周知、浸透方法があればお書きください。**

|  |
| --- |
|  |

**（２）生産性向上**

**Ｑ５．生産性の向上を図るために、働きやすい職場環境の整備に取り組まれていることがあれば、その内容についてお書きください。（ＩＴ、ＩｏＴ等の導入の取り組みがある場合は次のＱ６にお書きください）**

|  |
| --- |
|  |

**Ｑ６．ＩＴ、ＩｏＴ等の導入による生産性の向上に向けた取り組みがあればお書きください。**

|  |
| --- |
|  |

**Ｑ７．Ｑ５またはＱ６でご回答いただいた方で、生産性が向上した実績や成果に至ったプロセスがあればお書きください。**

|  |
| --- |
|  |

**Ｑ８．効率化を推進（働き方改革、労働時間の削減等）するための取り組みがあればお書きください。**

|  |
| --- |
|  |

**（３）雇用管理改善**

**Ｑ９．直近５年分の職員数の増減についてお書きください。（※必須項目）**

**（アルバイト、パート従業員を含みます。法人の場合は決算期ごとで構いません。）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | **2017年** | **2018年** | **2019年** | **2020年** | **2021年** |
| **採用者数 (人)** |  |  |  |  |  |
| **退職者数 (人)** |  |  |  |  |  |

**Ｑ１０．　社員の人材育成や能力開発、資格取得支援、キャリア支援等の教育訓練の拡充に対する取り組みがあればお書きください。**

|  |
| --- |
|  |

**Ｑ１１．人材の積極的採用や人材の定着に向けた取り組みがあればお書きください。**

|  |
| --- |
|  |

**Ｑ１２．生産性向上の実現に寄与した従業員に対して何らかの還元を実施されていることがあれば、その内容についてお書きください。**

|  |
| --- |
|  |

**Ｑ１３．Ｑ１０～Ｑ１２以外の雇用管理改善策として、下記の項目に該当する取り組み内容があればその内容をお書きください。なお、定量的なデータがある場合は数値も含めお書きください。**

|  |
| --- |
| 1. 正社員、非正社員の処遇改善や適正な分配（賃金・一時金ならびに諸手当、福利厚生）への取り組み 2. 非正規社員の正社員への積極的な登用、全社員に対する教育機会の充実、昇進・昇格等の均衡待遇・機会均等への取り組み 3. 仕事の成果や社員の納得性を高めるための人事評価等での取り組み 4. 女性・高齢者・障がい者・外国人を始めとした多様な人材が能力発揮をするための取り組み 5. 社員の健康維持、体力増進に対する取り組み、職場におけるハラスメント予防やメンタルヘルスのケアに対する取り組み 6. 職場における苦情処理や提案制度等、労使コミュニケーションを円滑にするための取り組み |
|  |

**（４）仕組み・ルール作り**

**Ｑ１４．生産性の向上や雇用管理改善の取り組みを定期的・継続的に行うための仕組み・ルールの整備があればその内容についてお書きください。**

|  |
| --- |
|  |

**（５）組織成果**

**Ｑ１５．生産性向上と雇用管理改善との関連性において、下記の項目に該当する成果があればお書きください。なお、定量的なデータがある場合は数値も含めお書きください。**

|  |
| --- |
| 1. イノベーション（新しい製品・サービス、ビジネスモデルの開発、新しい組織・システムの実現） 2. 顧客満足度（顧客満足度の向上、ブランドの確立、新規顧客の獲得、既存顧客の深耕・拡大） 3. 従業員満足（従業員満足度の向上、離職率の低下） 4. 組織活性化（従業員のモチベーションやチャレンジ精神の向上、能力向上、資格取得） 5. 人的資源への影響（就職希望者の質・量の向上、新卒・中途採用者の定着） 6. 地域社会への影響（社会的評価、地域貢献、地域経済団体活動、ＣＳＲ活動など） |
|  |

**Ｑ１６．近年の付加価値額の推移について****（※必須項目）**

**下記の計算式を参考に付加価値額をお書きください。**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | **前々期** | **前　期**  **（直近決算期）** | **今　期（予想）** |
| **付加価値額** | **千円** | **千円** | **千円** |

|  |
| --- |
| **【付加価値額の計算方法について】**  **※下記の計算式により算出ください。**  **（計算式）**  **付加価値額＝人件費＋減価償却費＋営業利益**  ※人件費（役員報酬、役員賞与、給料手当、賞与、通勤費、法定福利費、福利厚生費）  　　※付加価値額とは  「人件費」は、社会に対してどれくらいの雇用を創出しているかの目安。また、「減価償却費」は、将来に対してどれほどの設備投資を行っているかの目安となります。つまり、市場で商品やサービスの価値を高め、地域で雇用を行い、成長のための設備投資も行っている、というような社会経済への貢献状況を表すものです。  　　 ※審査上では、付加価値額の数字の規模は問いません。 |

**Ｑ１７．近年の労働生産性の推移について（※必須項目）**

**下記の計算式を参考に労働生産性をお書きください。**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | **前々期** | **前　期**  **（直近決算期）** | **今　期（予想）** |
| **労働生産性** | **千円** | **千円** | **千円** |

|  |
| --- |
| **【労働生産性の計算方法について】**  **※下記の“付加価値労働生産性”の計算式により算出ください。**  **（計算式）**  **付加価値労働生産性＝付加価値額÷従業員数**  ※従業員数について  　 　　各決算期時点における従業員数でカウント。  （派遣社員は含まない。嘱託・パート・アルバイトは８時間で１人に換算）  ※付加価値でみる労働生産性とは  **生産過程での労働効率（労働者1人あたりの生産額）をさしており、従業員1人**  **あたりが生み出す付加価値の高さを表すものです。**  ※審査上では、労働生産性の数字の規模は問いません。 |